

カヌーに乗ってびわ湖に触れよう

NPO法人びわ湖トラスト

親子環境学習事業の一つとして、今年も第3回目のカヌー教室が2013年8月6日（火）、大津市雄琴のOPAL会場で盛大に実施しました。応募多数のため抽選で30家族83名の方々に楽しんでもらいました。

まず事前に郵送した受付用紙を元に3班に分かれ受け付け。

・10時に山脇理事から開会あいさつと進行説明のあと、滋賀県立大学の川端さんから外来種が問題になっていることも含め、びわ湖の水草の説明。その後全員で湖岸に出て水草を採取し、パウチを作成するためにトレイに入れて天日乾燥。また顕微鏡で観察するため、プランクトンをネットで採集するのを実演してもらった。水中は表面近くまで水草が一杯で小魚が泳いでいるのがよく見えました。



・10時50分より、3班に分かれ各班が①カヌー体験、②プランクトン観察、③外来魚調べと水草パウチづくりを、昼食を挟んでそれぞれ約1時間ずつ体験しました。

①カヌー体験：OPALスタッフ5名による指導。まずきちんと気持ちよくあいさつ。次にカヌーに乗る際の注意およびパドルの漕ぎ方の練習をしたあと、実際にびわ湖へ。猛暑にもかかわらず以外に凌ぎやすい湖上を、皆さんはじめてとは思えないぐらいスイスイと自由に動き回れる事をたのしんでいました。群生している葦原や水中の藻も観察しながら、浜に戻った後、カヌー、パドル、ライフジャケットを元に戻し、あいさつして終了。今年は親子で乗れる二人のリカヌーが人気でした。（左下写真）



②プランクトン観察：滋賀県立大学の巖さん指導、川端さんと丸野さんサポート。顕微鏡の使い方を教わり実際のびわ湖の水を観察。また、前の大画面モニターに先生が各プランクトンを映し出し。プランクトンの名前、特徴を説明。はじめてみるプランクトンにビックリ。動いているのでさらに感激

③外来魚調べと水草パウチづくり：例年に比べ、今年は釣りの体験が追加され、OPAL スタッフ2名による指導：外来魚（ブラックバスとブルーギル）およびびわ湖固有種（ニゴロブナとホンモロコ）の写真でびわ湖の魚の現状を説明。その後棧橋でつりを体験。（右上写真）えさをつけたり釣った魚を針からはずしたりすることをおそるおそる体験。中には入れ食い状態を楽しむ子供もいました。（釣った外来魚は湖に返してはいけないことを説明）。つり終了後、乾燥させた水草を台紙に載せラミネート加工（パウチづくり）を行いました。今年は釣り体験が入ったので、カラーペンで名前を書いたり飾りを入れるのは自宅でお願いしました。

それにしても今夏は異常に暑い日で、場所によっては体温を超える所もあったが、熱中症もなく、全員無事で閉会式と記念写真撮影をして15時半頃閉会しました。



アンケートの結果一番人気は2/3の方がカヌーで、のこりの半分ずつが顕微鏡観察と釣りでした。

また親子合わせ「大変よかった」が80%、「よかった」が19%、「普通」が1%でした。

無料企画とすべく共催頂いた平和堂財団と共に、99%の方に「よかった」と楽しんでもらったことに、スタッフ一同で感謝いたします。

最後に琵琶湖の水を飲んでいる親子の方々に集ってもらい、実際に琵琶湖の自然を楽しみながら体験し琵琶湖のファンが増えてゆく事を期待してこれからも継続してゆく所存です。

文責 高木 理事